

令和3年度第2回定例研 講演 質問・感想・意見

演題 「発達通級指導教室の指導」 講師 坂本 條樹 先生

○質問

教材について

① 所沢市の通級で出版された教材集は買い求めることはできますか？

「基礎脳力アップパズル: 発達障害のある子の認知機能を高めよう!」学研ヒューマンケアブックス ¥1,980 です。

② 図形を覚える課題 (NHK の動画内での指導に使われていたもの) について詳しく知りたいです。もし販売されているようだったら、それについても教えていただきたいです。

図形を使ったアセスメント課題は「Rey-Osterrieth Complex Figure Test」という「神経心理学検査です。学習で使っていたのは、自作教材です。図版と実施方法, 採点法と基準データとの比較ができるファイルを作りましたので、差し上げます。下のリンクからダウンロードしてください。

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1PMkrJvDUElPPCCq_CYabElIrvFr8DoYc/edit?usp=sharing&ouid=117918854965718253028&rtpof=true&sd=true

③ 自分でみつけていくものだとは思いますが、A3 の紙の支援の部分も教えてもらえないでしょうか。

現在、まとめている所です。皆さんも良い支援法があれば教えてください。

・通級指導教室のシステムについて

① 所沢市の通級では何年間通うことができますか？

原則1年6か月です。1年経過すると、継続するか、いったん通級を休止して様子を見るか (6か月のチャレンジ期間: 直接毎週通級は止めるが、保護者や在籍学級との連絡や巡回による行動観察は継続) 決めます。1年6か月が経過すると、継続か退級か決めます (在籍校・本人/保護者・通級担当の3者が合意すれば退級)。

② 一年で退級できる子は私たちの市では珍しいです。一年経って成果が出て退級した子で、数年後に (思春期になるなどして) 新たな課題が生じて通級が必要になる子はいますか？ その場合、埼玉県では再入級できますか？

再入級できます。その時の審査 (就学相談) は、簡便です。今までの経験では、低学年から通級した児童は、再通級しない場合が多いです (適応が良い)。中・高学年から通級して、6年生で再び通級するとか、中学校で通級するとかの例はあります。また、6年の後期には「中学生移行プログラム」というのを行っています。これは、10回ほどのグループ学習ですが、それまでに通っていた全員 (私学希望者を除く) に声を掛けます。

③ 1教室に通級担当者が何人いて、教員一人の担当児童数は何人ぐらいなのか知りたいです。また、通級児の学年と人数、個別とグループの割合や時間の使い方なども参考にしたいです。

1教室に3～4人です。一人13人までを担当しています。個別指導中心ですが、水曜日に2単位時間の小集団指導の時間が設定してあります。

- ④ 中学校での発達支援教室への入級を決めてもなかなか継続しないとの話を聞いたことがあります。本校でも、保護者が通級での指導に理解がある児童は変容があります。児童の変容が伝わりにくい自校通級・サテライト通級（保護者の送迎がないため）では、どのようなことに留意して面談やFBをしていくとよいのでしょうか。

所沢では、自校通級でも保護者の同席(参観)をお願いしています。子どもの指導目標や変容をお伝えするためにも個別面談が必要かと思います。

- ⑤ 通級を終了するにあたり、子供、保護者、学級担任、通級教室の意見が合わなかった場合、どのように調整しますか。

②の回答を参考にしてください。意見が合わない場合の多くは、保護者が不安に思っ
て通級を辞められない場合です。その際は、・保護者はいつでも相談に来られる・在籍校
を定期的に訪問して様子を見守る(そのために木曜日の午前中の時間割には通級指導を
入れていません)、ことを伝えると、安心されるようです。また、担当者も子供のその後の
様子がわかってよいです。

- ⑥ 一年間連続通級またはチャレンジ期間を経てからの退級の基準はどうしているでし
ょうか。(児童の様子、保護者、学級担任、通級担当の4者?)

おもに、通級初期のアセスメントデータ(神経心理検査・行動検査・生理検査)がどの程度
改善されたかを参考にし、面談による話し合いをします。

- ⑩ 入級の条件にIQ80以上とありますが、IQの誤差(±3～4)は考慮しますか? 例え
ば、他の4つの入級条件をすべて満たしていても、IQ79であれば、入級を断りますか?

かなり厳格に80という基準は適用しています。それは、説明責任(なぜAさんは通級可
でBさんは通級不可なのかの説明)からの理由と、WISCで全検査IQが少しだけ足り
ない場合には、就学支援委員の学識委員(大学教員)に相談し、今までは明らかに「一
般的機能」以外の例えばPSIの低さが、全検査IQを引き下げているなどと認められた
場合は、通級が可となる場合があります。

- ⑪ グレーゾーンの子どもたちのほうが困り感が強く出ているため、その子の保護者からメ
ンタルフレンドでなくより専門性のある先生方に指導して欲しいという声は、実際にはな
いのでしょうか。また、メンタルフレンドの学生さんに対する、グレーゾーンの子どもた
ちを支援するための研修プログラムはどのようなものが有るのか、ご教示頂けると幸いです。

メンタルフレンドの派遣事業は、市教委が中心になって行っています。メンタルフレンドは、
学生の実習人気が高く、大学の中でも選抜された人材が派遣されます。大学院(修士課程)
を修了して博士課程の学生もいて、すでに心理士(師)の資格を持っている人もいます。市教
委としては、実習上の注意等の研修をしていますし、メンタルフレンド派遣中は、学生は定期
的に大学の指導教官や市教委の心理士にスーパーバイズを受けながら支援を実施します。ま
た、毎回の支援記録や報告を学校に残していくため各学校では、安心してお任せしている感
じです。

⑫入級相談では、どうやって子どもの見取りを行っているか教えていただけたらありがたいです。その時に用いるアセスメントなどもあったら教えてもらいたいです。

基本は全員にWISCを実施しています。また、授業中の行動観察には、観察シート(子供の行動のどの部分をどう見るかポイントを記入欄とともにをまとめた A4 の記録用紙)を使います。WISC が実施できない、例えば緘黙の子どもには、声を出さなくても検査できる、絵画語彙発達検査(PVT-R)、抽象語理解検査(SCTAW)を「言語理解」の指標として、レーブン色彩マトリックス検査(RCPM)を「知覚推理」の指標として代替しています。

⑬一年間の通級指導で学級に適応できる力をつけるために、保護者や学級担任などどのような連携をし、またどのような苦労や工夫があったのか、もう少し詳細に具体的に知りたいと思いました。

在籍校の学級担任には、長期休業中(夏・冬)に通級指導教室から派遣依頼を出して、出張として情報交換会(個別の教育課程協議会)を行っています。年度当初は在籍校の先生方は忙しいので、通級担当者が出向いて情報交換します。そのため、4月の指導開始は第2週目以降にしています。

⑭ 基本的には1年間の通級ということですが、小・中の通級指導教室間の連携や、情報共有をどのように進めているか、教えてもらいたいと感じました。

「通級システム」の質問②でも触れましたが、小学校から中学校に移行する際には、中学校の担当者が6年生に直接接して(グループ学習による中学校生活についての説明、これには中学校の通級利用中の先輩も6年生に話をしてくれます。)子供を見ますし、中学校担当者と小学校担当者は就学相談も一緒に行っています。指導記録などは、そのまま引き継ぎます。

・指導方法について

① 1回90分枠の中での指導とのことでしたが、グループでの指導も行われていますか？
「通級システム」質問の③を参照ください

② 複雑図形検査をするとき、3分後描かせたあと、見本の図形を一度見せてどんな間違いをしているか確認させますか？もしくは正しい図形を確認させずに、40分後に再度検査をとりますか？

見本の図形を見せるのは、模写(視写)段階だけです。後の段階は手本を見せません。また、「覚えながら描く」などの案内もしてはいけなくなっています。

③ 頑なに自分を出さない生徒にはどのようにアプローチすればいいのでしょうか。
まずは、その子の興味関心の高い話や活動を一緒にすることから始めるかもしれません。

④ 小中共に通級を利用した子と小のみ通級を利用した子の違いを教えてくださいました。こんなに差があるのは大きいと思いました。富士宮では中学の通級がないことを考えると将来が心配です。小学校での、より有効な通級指導を教えてくださいたいです。

就学時健康診断や幼児の就学相談の時期から予備軍をスクリーニングすることが大切かもしれません。

⑤ お話しいただいた他にも行っている検査や課題がありましたら教えてください。
たくさんありますが、子供の何をアセスメントするかで決まります。レジメの中にも検査課題が載せてあったと思います。

・アセスメントについて

① 障害特性でグループ分けした際のアセスメントと、知能検査の結果からグループ分けした際のアセスメントは、どちらか片方をとっているのでしょうか、それとも両方の視点からアセスメントをとっているのでしょうか？

両方の視点から検討しています。

② 事例に応じたアセスメント方法を具体的に教えていただけるとありがたいです。
レジメの中に示したものを乗せたと思いますが、省略していたらごめんなさい。

・指導の成果

① 通級での指導の成果として、事例時の保護者が宿題への取り組み方が改善したとお話ししていました。友達ともトラブルがある等の実態がありましたが、学級での適応にどのような変化が見られたのか教えてください。

LD に起因する学びにくさはいくらか残っていましたが、学校では文化祭実行委員を務める等活躍していました。動画の子供は現在高校生です。

② 支援が必要な子たちの進路、社会に出てからの実態はどうなのかを知りたいです。

(早期介入で支援を受けてきた子と、支援のタイミングが遅くなった子が社会に出てどうなのか)

視聴いただいた最後半で N 君と M 君の事例を紹介しました。概して、支援のタイミングが遅れた子供のほうがその後の様子がよくない例があるようです。

・保護者・家族との連携

① ご家族への対応について、もし先生が幼児教室の担当ならどのような方法で分析し、どのように相談にのりますか。

例えば、ASD や ADHD などの比較的幼少のころから顕在化する発達の課題がある子もいますが、「緘黙」や「LD」「集団になじめない子」などは、幼少期では顕在化しない場合もあります。例えば、LD は、小学校入学して国語科の授業が始まって明らかになる場合があります。しかし、そのような LD 児は、幼少の頃から絵本の文字に興味を示さなかったり、人物画等が年齢相応の表現になっていなかったりする予兆ともいべき状態が見られます。そのあたりは、典型発達者がどのような経過をとるかを常に意識しながら相談や観察にあたるとよいと思います。

② 通級してくるお子さんの保護者の方々の日々の相談はどのように行っていますか。その観点や具体的な内容をお聞かせください。

通級の時間の最後には、20分ほどの子供の自由時間(お好きにタイム)があります。通級に来ているその日のうちに相談したいことがあれば、「お好きにタイム」の時間に他の子供や他の担当者と一緒に活動してもらって、保護者と主担当が1対1で面談する時間を作ります。ま

た、普段は火曜日の午前中が就学相談と通級している保護者の相談日としていて通ってくる通級を入れていないので、その時間を相談に当てます。ですから、火曜と木曜の午前中は指導を入れていません。

③ コロナの影響か、乳幼児健診で保健師さんとながれていなかったり、登降園時、園の先生とうまくコミュニケーションが取れなかったりする親が多くなった気がします。初めて相談するところが幼児言語教室ということも珍しくないです。幼児言語担当にできる支援方法をアドバイスください。

上記①でお答えしたことを参照ください。

・その他

① 中学校通級教室の実践は無かったですが、「通級指導教室での取り組みの19ページの男子生徒の絵が描かれている左横に【中学校通級指導教室の利用・学習/生活マネジメント 自立活動による適応の指導・生活技能の訓練と書いてあります。その部分の指導実践や評価方法を教えてください。

私が、小学校の通級指導教室担当でしたので、中学生の指導についてはあまり触れませんでした。中学校の指導の様子は、以下のHPで資料をダウンロードしてご覧いただけます。

http://www.tokorozawa-stm.ed.jp/tokutuu-oh/pdf_file/guide_peace.pdf

② 大学との連携はどのようにして行ったのか経緯を知りたいです。

当時(H16年)の教育長が関学連携の包括協定を結びました。所沢市内の早稲田大学には心理以外にもスポーツ科学部もあるので、運動系の支援もしてもらっています。水泳指導の講習会なども教員対象に大学で行っています。

③ WISC-IIIは、自動計算や分析のエクセル版ソフトが出回っていましたが、WISC-IVはWISC-IVの販売元が出している正式なソフトだけでしょうか。

あります。私も作成し使っています。現在 WISC-Vの自動計算換算ソフトを製作中です。間もなく完成！エクセルの機能だけで作成できるので、作られたらいかがでしょう。

.....

ご感想の中へのお答え

通級担当は「教育」と「心理」の専門知識が必要であり、所沢市では皆さんが心理士の資格もお持ちということでした。これから私も専門知識を高めていきたいと刺激を受けました。ありがとうございました。

「学校心理士」などは、学校教員を対象とした心理資格で、例えば WISC 等の検査実施ライセンスにもなっています。これは比較的取得しやすいので、挑戦されるとよいと思います。以下を参考にしてください。

<http://www.gakkoushinrishi.jp/shikakushutoku/index.html>

・教育に金を掛けないこの日本にも、所沢のような恵まれた通級教室の環境や特支組織が存在しているのだと知り、驚かされました。われわれ下々の者だけでなく、教育行政組織構築に関わっている先生方にも見ていただきたいと強く感じた内容でした。

私も、教育予算の少なさには困り果てていました。ですから、民間の研究助成などを受けながら充実させました。数十万円から数百万円までの各種助成があるのでチャレンジされたら良いと思います。

・担当している先生方が、教員免許や臨床心理士の資格を持っておられるのはすごいです。個に応じた対応や分析ができていて、エビデンスに基づいた指導が行われていることは理想だと思います。自分たちはそこまでできていないと反省しました。

2つ上の答えを参照していただき、研修されてください

・発達障害の要因が断定できていないからこそ、幼稚園教諭として、五感が動くような感動体験を子どもたちに味わわせてあげることが大切だと思った。

体を通して学ぶことはたくさんあり、とても重要です。また、伝統的な遊びや言葉遊びなども神経発達にはとても良いことがわかっています。

・先生方の主体的な専門性向上の意識が素晴らしいと思いました。自分も専門性向上を意識して、アンテナ高くしていきたいと再度強く思いました。通級児童が増加している現状を考えると、個々の専門性向上はもちろんですが、専門性のある職員が新しい職員を育てる仕組みも必要になってきます。横の広がりはどう進めているのか、また聞かせてもらえるとありがたいです。

所沢の通級指導担当者は、多くが教員免許に加えて心理の資格を持っていますが、もともとは、皆普通の学級担任でした。通級担当をしながら勉強してもらいました。通級担当者の多くは、自分の学級に発達に課題のある児童がいて、通級指導教室と担任としてかかわっていた先生方です。そのような熱心な担任の先生を通級指導教室にスカウトしてくるのです。ですから、通級担当をしていた教員の中で若手で優秀な者には、市教委(行政)に入ってもらって、人事でも通級のことを考慮した配置にしてもらっています。現在、所沢市教委の No.3 (教育長・学校教育部長の次)で人事にも影響のある者は、元通級担当者です。

・動画で見せていただいた LD の男児の変化から、「自分を知る」ことがいかに大事であるか改めて学ぶことができました。

ご指摘いただいて、改めて「自分を知る」という機能も働いていることに私も気づかされました。ありがとうございます。

・フローの日課をみて、今後、定数化したら2時間続きで一コマのようになるのかもしれないと思いました。集中力を保って学ぶことが出来るための、一コマの構成を考えていかなければと思います。

各都道府県の通級定数化は、教員一人当たりの担当人数を最大25名までと考えているところが多いようです。それは、文科省の方針とも異なります(文科省では13人まで1人担当)。これは、週当たり25時間程度を持ち時間とする考え方で、2枠を1人で通級することは今後

難しくなりそうです。ですから、辞めました。

通常の通級指導教室で脳科学的方法を使うことはできませんが、個別の指導計画・指導内容をデータベース化している点は、参考にすることができると思いました。

脳科学的手法に必要な機材は、15年前は1億円ほどしていました。私たちが初めて使った機材は、2011年には480万円まで安くなりました。現在、の値段は2万円からあります(NEU)。以下のサイトを参照下さい。

<https://neu-brains.co.jp/solution/>

また、データベース化は、ぜひとも進めてください。それには、まずは指導資料のデジタル化が必要です。

通級指導教室の児童の表れを類型化し、トレーニングごとの効果の高さを記録していけば、通級指導のハウツーができあがると思いました。それを積み重ねておけば、担当者が入れ替わって誰が担当になっても、高いトレーニング効果を維持できると思いました。私は、本年度初めて通級担当になりましたが、一年間のまとめとして、「このような児童にこのようなトレーニングをしたらこうなった」という記録を、第三者が見ても分かりやすいようにまとめたいと思いました。

ぜひとも進めてください！

・小学校6年生からやっと通級に通うことになった児童がいます。入級まで時間をかけて通級の必要性を保護者や本人に面談や説明を行ってきました。保護者も本人も通級に通うことを周囲には知られたくないとのことでいろいろな配慮をしましたが、学期始めはいつも本人が行かないと言っていました。それでも9月末～12月までは順調に通い、担当としては成果が出てきたと感じていました。しかし、また、今現在「あと一回で退級する」と言っています。保護者の障害受容や通級指導への理解を進めていくことが重要であると改めて感じています。

一番が、保護者の「わが子理解」さらに特に高学年からは子供の「自分理解」が大切と思いません。

・「終了には開始までが大切」という話を聞かせていただき、今の自分のアセスメントの取り方について考えた。開始に保護者、子供の困り感や主訴をはっきりさせることで、次の支援にバトンを渡していけると思った。また、チャレンジ期間を設けることで相方に心の準備ができるということも参考にしたい方法だった。

通級指導が長引くのは、ほとんどが入りの就学相談がしっかりしていないことに起因します。

・検査結果をしっかりと分析し、課題を設定しているから保護者の納得と理解を得られるのだと思う。幼児は WISC をとれないが、年少のうちから色、数字、絵カードを利用したワーキングメモリーを上げる課題をゲーム感覚で行っていきたい。

かるた遊びやけん玉, 石けりなどの遊びをたっぷりとするのが幼児期にはよいと思います。

・一番興味深かったのは、中学卒業後の進学先の分析結果でした。小学校から通級を受けている子と、中学から通級の支援を受けたことでは、ずいぶん大きな差が出たように思います。先生もおっしゃっていたように、早期介入の大切さを感じました。自分の地域でも、中学通級を終えた生徒の進学先を数年分まとめてグラフ化すると、見えてくることがあるのかもしれない。

今あるデータをまとめてみると、見えるものがあると思います。

・通級を担当する・させるにあたって、適正な資質やこれだけの研鑽が必要であることを、人事担当者は知っているのか、疑問である。

9つ前の感想へのコメントにも書きましたが、通級担当者を人事担当者にすればよいのです。熱心な担任の先生を通級指導教室にスカウトしてくるためには、通級担当をしていた教員の中で若手で優秀な者には、市教委(行政)に入ってもらって、人事でも通級のことを考慮した配置にしようのが手っ取り早いです。